

令和元年度 第1回中井町総合計画審議会概要

日 時	2019年11月12日(火) 10:00~12:00
出席者	委員名簿のとおり
議 題	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶</p> <p>3 協議事項</p> <p>(1) 後期基本計画策定方針・ポイント、スケジュールについて</p> <p>(2) まちづくりアンケート結果(速報)について</p> <p>(3) その他</p> <p>4 その他</p> <p>5 閉会</p>
議 事	<p>◎会長、○委員、●事務局</p>
事務局	<p>1 開会</p> <p>企画課事務局にて開会</p> <p>欠席委員2名(金子貴司委員、咲間美聡委員)、過半数の出席を満たすので会議は成立するものとし議事を進行</p> <p>配布資料の確認</p> <p>新任委員の紹介(相原久雄委員、加藤充一委員)</p>
会 長	<p>2 会長の挨拶</p> <p>台風19号の襲来から1ヶ月経っても被災しているまちがある。中井町では大きな被害はほとんどないと聞いているが、異常気象が続いているので、来年、あるいは再来年に中井町にも台風が襲来するかもしれない。いつ、どこにきてもおかしくないということを踏まえて、総合計画も先を見越してつくっていくべきだと思う。本日の審議会では、後期基本計画策定方針・ポイント・スケジュール及びアンケート調査結果(速報)の報告について審議をお願いしたい。</p>
事務局	<p>3 協議事項</p> <p>(1) 後期基本計画策定方針・ポイント、スケジュールについて</p> <p>・資料1-1、資料1-2に基づき説明</p>
委 員	<p>【意見】</p> <p>○資料1-1 後期基本計画策定方針の4(2) 町民参加について、来年度に地域別懇談会を開く予定はあるのか。アンケート調査やワークショップを実施するようだが、以前は一人でも多くの意見を聞く機会として地域懇談会などを開催してきた。</p> <p>中井町では総合計画の策定が議決事項になっているが、地方自治法の改正により、議決事項にすることが義務ではなくなった。それなのにも関わらず、わが町だけ義務化のままになっているので、議会と相談して見直した方がよいのではないかと。時代の変遷が激しい昨今、総合計画は町のビジョンを示していけばよいので、議決事項だとある意味縛られた中での政策提言・実行となってしまう。</p>
事務局	<p>●総合計画の策定が議決案件になっていることについては、議会基本条例を策定する中で、町である程度議論して調整したうえで決定したものだと思っている。また、今回の後期基本計画の策定は、既に議決した基本構想に含まれる計画なので、前期基本計画を継承して策定することになる。次期総合計画については、個別分野の計画については、義務的に設置が求められている計画や国</p>

<p>会 長</p>	<p>から補助金をもらうためにつくらなければいけない計画もあるので、どこまで基本計画に記載するのも含めて、総合計画の在り方はこれまでよりはシンプルなものになるものと思っている。</p>
<p>委 員</p>	<p>◎国からの補助金をもらうためには、国や県に計画を定めていることを示さなければいけないので、計画を簡素化しすぎると無計画だと言われかねない。</p>
<p>事務局</p>	<p>○福祉法の中で計画の策定が義務付けられているものがあり、そうした計画がなければ補助金ももらえなくなっている。今後は個別分野の計画が重視されるようになり、その位置づけも高くなると思うので、総合計画が全ての計画の最上位にならなくなるのではないかと考えている。</p>
<p>会 長</p>	<p>●来年度、総合計画の策定にかかる地域懇談会を実施する予定はない。町民参加に関しては、今回実施したアンケート調査に加えて町民ワークショップを実施する。町民ワークショップについては、これまで参加できなかった町民を対象として実施することを考えている。</p>
<p>事務局</p>	<p>◎町民アンケート調査の回収率は25.5%と4人に1人程度しか回収できていない。パブリックコメントではインターネットで意見募集するだけであるならば、町民アンケート調査と同様に多くの意見の回収ができないのではないかと踏まえ、パブリックコメントの実施にあたっては町民から意見をもらえるように工夫してほしい。</p>
<p>事務局</p>	<p>●パブリックコメントは、インターネットでの周知・募集だけではなく広報でも周知し、紙ベースでいくつかの公共施設に置かせてもらう。</p>
<p>事務局</p>	<p>(2) まちづくりアンケート結果（速報）について ・資料2-1～資料2-4に基づき説明</p>
<p>委 員</p>	<p>【意見】</p> <p>○町民アンケート調査の回収率が低かったが、実施方法に対する反省はあるか。ただ実施しただけで終わらず、回収率が低かった理由は何か、実施の仕方が悪かったのか、それとも調査への関心が低かったのか、結果をどのようにフォローしていくのかなどを考えるべきではないか。自治会をとおしてアンケートを実施するという手段もあったのではないかと。</p> <p>企業からは町に対して不満がたくさんあるようだが、プラスに捉えるしかない。それらをどう解決していくかによって、中井町が存続していけるかがかかっている。企業をできるだけ残して、税収を保ち、歳出を減らしていくべきである。将来的に吸収合併をするのか、それとも単独で町政を進めるのか。</p> <p>小中学生は生活の行動範囲がまだまだ狭く、ほぼ中井町で生活が完結している。そういう環境なので、住み続けられるという回答が多かったことに安心してよいのか。高校生になると、まずは交通の不便さを感じると思う。社会人も同様に、どうしても中井町から転居していく傾向がある。自宅の周辺を見渡しても高齢者だけしかいない。若い世代は他のまちで住宅を購入してしまうので、今後両親が亡くなっても、戻ってこないことが多く、空き家が増えていく。これをどう捉えていくか。高齢化が進むことは目に見えている。特に中井地区では、小学生の入学児童が極端に減っている。中学生も同様である。</p> <p>地区ごとに抱えている課題が違うので、どのように課題を集めていくのか。工場予定地に対する不満や、井ノ口地区に下りてくるところの道路問題、それから中井中央公園までの道のりが遠いことなどを挙げられる。中井中央公園については、吊り橋をつくれぬかなど議論してきた。公共交通については、娘がいる家庭では、バスでの通勤通学は不安な部分があると思うので、その結果、娘は二宮町や秦野市でアパートを借りることになる。</p> <p>企業と町民でお互いにアイデアを出し合って、よい方法はないのか。企業人を含めると人口は2万人強になるので、アイデアを持っている人がいるはずである。そこを梃子にして協議会を立上</p>

事務局	<p>げていくなど。</p> <p>●アンケート調査については、前回計画策定時と比較するため対象者数を前回と同様に1,400人と設定した。地域ごとの課題の収集については、今後、自治会地区ごとにクロス集計を実施するため、ある程度はカバーできるものと考えている。人口減少は避けられないが、いかに抑制していくかが重要となる。企業との連携については、総合戦略の取組でいくつかの企業に協力してもらっている。中井の環境を良くする会でも意見交換を行っているところで、企業との関係は大切だと考えている。町外に若い世代が転出してしまうことは転勤などの要因もあり、非常に難しい問題である。</p>
会長	<p>◎町民アンケートのまちづくり活動への参加意向の結果について、町民の姿勢が消極的だったということに驚いている。どのような理由が考えられるか。</p>
委員	<p>○ボランティア活動に参加している人の顔ぶれが30年間経っても同じという現状がある。働いている20代～40代は仕事や子育てで忙しくて、女性も社会に出て働いている中で、中井町にはボランティア活動に対する認知度が低く、それは中井町の特徴として捉えられる。町議員についても、平均年齢は65歳を超えている。そういう状況で、中井町が置かれている状況を認識していかなければいけない。小中学生アンケートについては、町の将来像を聞くようなもっと夢の持てるような内容にした方がよい。</p>
委員	<p>○高齢化が進んでいることにより自治会活動が活発でなくなっており、自治会の加入率が低下していること、それに伴い会員が高齢化していること、輪番制で仕事が回ってくることなどの関わり方が影響していると思われる。</p>
事務局	<p>●今の子育て世代は忙しい。就業環境も大変になっているなか、お金も時間も限られていて、地域活動に参加したくてもなかなかできない傾向があると思われる。中井町は自治会の加入率が高く、高齢者を中心に自治会活動に取り組まれていると思うが、本調査の回答者の中に自治会や各種団体に活動している人が「町民参加は、団体や選ばれた人が行えばよい」に回答している可能性がある。</p> <p>また、まちづくり活動の捉え方で町民の活動は変化が起こるのではないかと。ちょっとしたことでまちづくり活動だと、間口を広くして伝えていくことも必要である。前期基本計画の策定以降、小さな取組の中から、子育て団体などの新しい独自のまちづくりの活動が芽生えていると聞いており、新たな町民活動が生まれてきている時期だと思うので、否定的に捉えるだけではないように思う。</p>
委員	<p>○将来都市構造について、市街地ゾーンはアイデア浮かびやすいが、里山ゾーンではなかなかでない。「里都まちなかい」というブランディングの推進は、将来的に中井町を元気にする一つの方向性だと思う。公共交通については、コンパクトシティ構想に基づいてデマンドバスを運行させているが、町民のニーズに合致しているのか検証した方がよい。例えば、高校生は通学で町外にでるので、移動範囲を町内で完結させるのではなく、町外と結び付けることをやるべきである。もう一つは、交通困難地域をはじめとして、優先順位をつけて対策することである。棚田も景観資源の一つとしてポイントとなる。観光名所のスポットをつくってもよい。</p>
委員	<p>○オンデマンドバスは成功していないと思うため、町民アンケートの結果を踏まえて、運行を中止することも含め効果を検証する必要がある。全国では、オンデマンドバスではなく、町内の循環バスを運行させている。二宮町は循環バスを運行させているので、中井町民も利用できるように調整できないのか。</p>
委員	<p>○オンデマンドバスは、町内での利用が原則になっており、交通不便地域とバス停を結ぶ役割を持たせている。町外に立地する日赤病院を結んでいるのは、例外としての措置だと聞いている。オンデマンドバスの効果については言う通り、実施してから7年経つので、廃止も含めて検討する</p>

会 長	ことは必要かもしれない。
事務局	◎いかなる政策も見直しをしなければならない。 ●車両も更新の時期となっているため見直しの時期だと認識している。交通に関する会議が別途設置されているので、具体的にはそこで議論したい。
委 員	○オンデマンドバスの運行については住民も気にしている。大事なことは交通の不便を解消することである。
会 長	◎議論を聞いていて、中井町で課題となっていることは、道路交通とまちのにぎわい、里山と里都まちというブランドをどうするかということのように思われる。昨年、森林経営管理法が制定されて、害獣や土石流の被害が多くなっていることにともない、県と市町で取り組んでいくことになっている。結果的に市街地をどのようにしていくのかにつながるが、町に人が集まる拠点をつくることは必要だと思われる。
委 員	○自然環境を保全しながら、大きな企業を誘致できないのか。
委 員	○企業誘致の必要性は感じている。秦野中井インターを活用し、当インターから東側の土地利用を進めようと秦野市と一緒に取り組んでいる。ただ、既存の問題などもあることから、国や県と調整して進めていく必要がある。グリーンテクなかいが、都市計画の用途地域等の関係で特定の施設しか整備できない制約もある。町のそうした状況を踏まえ、いつも感じることは、町に関わる主体が連携する仕組みの中で繋がっていくような、人間の心理を突くことができればよいのではないかと個人的に思っている。
委 員	○理想で終わらせず、福祉を充実させてすべての町民が普通の暮らしができるようにみんなでやっていくしかない。
委 員	○企業も業者もそうだが、アンケート結果は前から変わっていない。就業者は駅から自分の会社までバスや車で通勤しているだけなので中井町のことをよくわかっていないということも含めて、アンケートで中井町の印象を聞くと自然がよいと言う。このように好意的に受け止めてくれている人が多くいて、昼間人口が多いのが中井町の特色なので、企業や業者ともしっかりとコラボレーションしていけばよいとずっと思っている。そのために、企業の声にも耳を傾けてほしい。例えば、秦野駅からグリーンテクなかいまでのバスはあるが、町内とグリーンテクなかいを結ぶバスがない。オンデマンドバスを利用したくても通勤定期を発行してもらえないため利用することが難しく不便な状況が続いている。
委 員	○先日、自治会で防災に関する出前講座を開催したが、先日の台風により中村川がもう少しで氾濫しそうだったにもかかわらず、行政はその状況を自治会に教えてくれなかった。防災に関する講座を開催するのだから、そうした状況を教えてほしかった。そういう情報伝達をきちんとやらないと町民は離れるばかりだと思う。
会 長	◎危機感の共有という言葉がある。行政と市民が同じ情報を持っていなければ、民主主義は成立しないということであるが、どんな情報を共有するかが重要である。自治に対する当事者意識を持たせるためには市民に危機感を持ってもらえるような情報を伝えなければならない。きれいごとしか伝えなかったら、市民は行政がやってくれるから大丈夫だろうと思ったままで行政に任せきりになる。そういう部分があるかもしれない。 企業のニーズに応えていくことは当たり前であり、ギブ・アンド・テイクの関係をつくり企業からもアイデアをもらえるように戦略的に取り組んでいくべきである。オンデマンドバスの通勤定期の取扱いについては事務局で調整されたい。
委 員	○小中学生の居住意向が想定を下回っており、子どもの頃から自分のまちに住みたくないと思っている子どもが多いことを思うとショックだ。中井町の良さを伝えていくことが必要である。
会 長	◎教育委員会からも積極的に伝えていってほしい。

<p>委 員</p>	<p>○中井町には何もないとよく言われるが、例えば、車で 30 分程度で新宿にいけることが知られていない。井ノ口地区に商業施設ができてきちんと利用者もいる。アンケート結果をみると、買い物環境が改善されたこと、商業施設ができればまちは活性化するし、子どもは住み続けたいと思ってくれること。もう一つは、交通の問題があるということ。子どもの想いも時代変化で変わっていく。親が中井町に対して感じている想いや町の取組で変わる。</p>
<p>会 長</p>	<p>◎子どもたちにとって何をすべきかという考えで、建設的に捉えるべきである。</p> <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合計画審議会となかい戦略みらい会議の統合について 配布資料 3-1～資料 3-4 に基づき説明
<p>会 長</p>	<p>◎統合することは決定事項でよいか。</p>
<p>事務局</p>	<p>●そうである。来年 3 月に条例改正を予定している。</p>
<p>会 長</p>	<p>◎来年度から、地方創生に係る取組の評価をこの審議会で行うことになるのでご承知おきいただければと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>4 その他</p> <p>●次回の総合計画審議会の開催予定を提示：3 月 25 日（水）（予定） 委員に対する報酬支払は 12 月中を予定</p>
<p>事務局</p>	<p>5 閉会</p> <p>●本日はありがとうございました。</p>